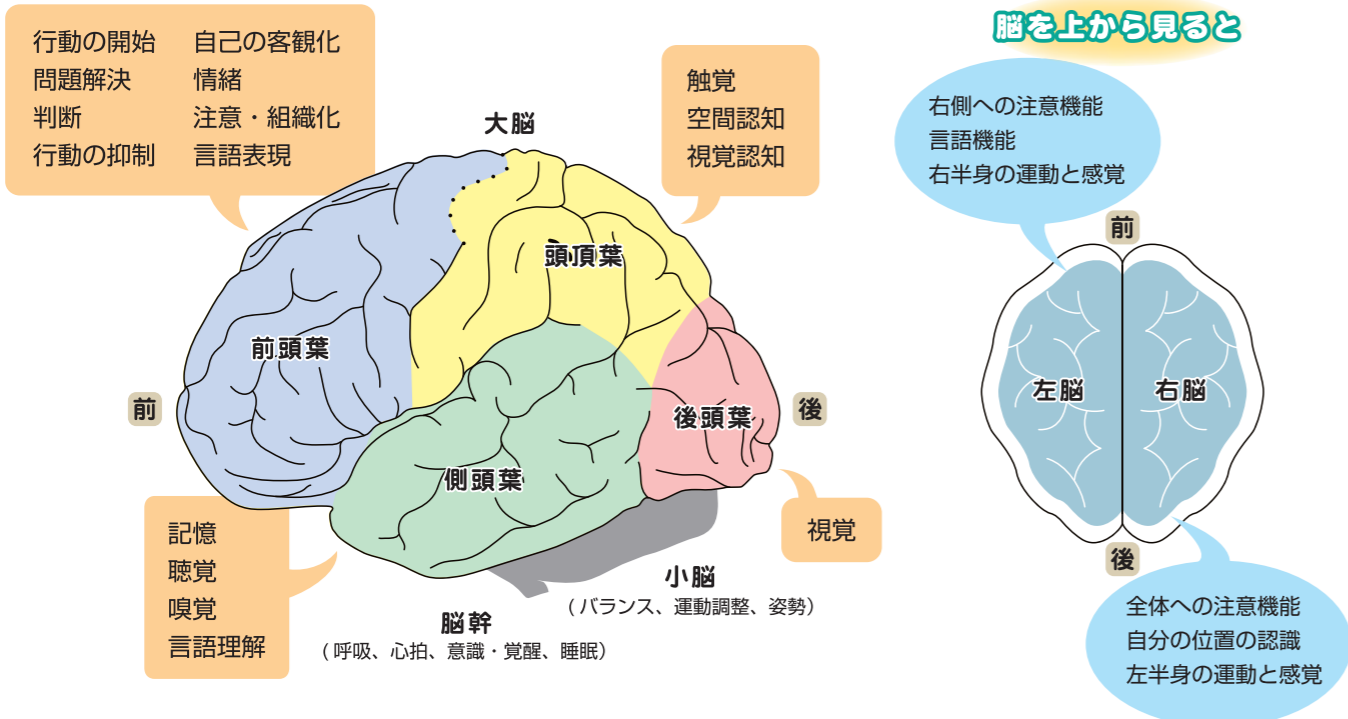


脳の仕組み

脳は部位によって役割を分担して働いています。外から入ってきた多くの情報（視覚、聴覚、嗅覚、触覚等）を処理して適切な行動に移すために、いくつかの部位が神経ネットワークでつながりあって働いています。脳卒中などの病気や、外からの強い力が加わると、脳細胞が傷つきうまく動かなくなります。また脳細胞と脳細胞をつなぐ神経線維が切れると、脳内で情報をスムーズに伝達することができません。



主な原因

- 脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）
- 脳外傷（脳挫傷、びまん性軸索損傷など）
- 脳炎、脳腫瘍
- 低酸素脳症（一酸化中毒、心肺停止蘇生後）

だれもが、ある日突然
なるかもしれない障害です。

福祉サービスの利用

後遺症の状況によっては障害者手帳を取得して、様々な福祉サービスを利用することができます。（障害者手帳に該当するかどうかの基準や手続は、それぞれの障害者手帳制度により決まっています。）

| | | |
|------------|------------------------|-------------|
| 脳の損傷による後遺症 | 手足のまひや言語、視野の障害がある場合 | 身体障害者手帳 |
| | 発達期（18才未満）に受傷した場合 | 愛の手帳（療育手帳） |
| | 記憶や注意機能、社会的行動上の障害がある場合 | 精神障害者保健福祉手帳 |

相談窓口や利用できるサービスの情報が欲しい時

とうきょう高次脳機能障害インフォメーション
<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/shinsho/kojino/index.html>

令和5年8月
 発行：東京都心身障害者福祉センター 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ
 電話 03-3235-2952

東京都
再生紙を使用しています

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

高次脳機能障害の理解のために

脳卒中などの病気や交通事故など、様々な原因によって脳に損傷をきたしたために生ずる、言語能力や記憶能力、思考能力、空間認知能力などの認知機能や精神機能の障害を高次脳機能障害といいます。



脳損傷後の後遺症

外見からわかりにくい・一人ひとり症状が違う

高次脳機能障害の色々な症状

注意障害

集中力が続かない。気が散りやすい。複数のことを同時にやれない。

記憶障害

病気やケガの前よりは良く覚えているのに、新しいできごとを覚えられない。

失語

話を理解できない、話そうとしても言葉が出てこない。文字が読めない、書けない。



元気になってよかったね！

さあ、社会復帰だ。がんばるぞ！

でも、前と少し変わってしまった…？

あれ？なんかへんだな。うまくいかない…

遂行機能障害

段取りよく物事を進めることができない。優先順位がつけられない。

半側空間無視

目では見えているが、片側の空間を見落としてしまう。

感情と社会的行動の障害

感情や欲求のコントロールができない。やる気が起きない。人柄が変わってしまう。

このリーフレットについて

ここで紹介している情報がすべての高次脳機能障害にあてはまるわけではありません。中途半端な知識と思いついて、障害のある方に接することは、避けなければならないことです。「その人」の理解は、障害のあるなしに関わらず、お互いに一人の人間としてつきあう中で育まれるものではないでしょうか。